

北海道で働く人のリアルがわかる！キャリア探求マガジン

未来の しごとの参考書

vol.9
北海道ボールパーク
Fビレッジ
のお仕事編

◎編集発行 HAJ(株)北海道アルバイト情報社
札幌市中央区南2条西6丁目13-1
<https://www.haj.co.jp/>

◎共同発行 株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメント

◎取材・編集 有限会社シーズ

◎発行日 2025年9月1日



Fビレッジで働く人は
どんな想いや願いを
抱いているんだろう？



◎巻頭インタビュー

F VILLAGEで働くというコト

株式会社北海道日本ハムファイターズ
鍵谷 陽平さん

選手の体を支える選手ダイニングに潜入！
突撃！選手ごはん！

F VILLAGEに
新たなファンや仲間を。

TAKE FREE

未来の
北海道 しごとの参考書



Access! /
北海道未来のしごとの参考書 検索
<https://sankousho.haj.co.jp/>

笑顔が集うまちは、
笑顔を支える人が働く
まちです。

視界いっぱい球場の景観に胸がときめいたり、
ファイターズの選手の活躍に歓声を上げたり、
焼きたてのパン、おいしいスイーツで舌鼓を打ったり、
農業や温泉、アクティビティを思う存分楽しんだり。

ワクワクが止まらないFビレッジだけれど、
そんな風景を演出したり、ユニークな体験を企画したり
感動の瞬間を支えたりしているのが、Fビレッジで働く人たち。
このまちを訪れる人たちの笑顔が見たい…

その一心で自分の使命と役割のために汗を流す、
舞台裏のエンターティナーです。

今回スポットを当てたのは、Fビレッジで働く人たち。
なぜこの仕事に？うれしいことは？どんな夢を抱いている？
気になるあれこれを、尋ねてみました。

未来の しごとの参考書 vol.9 北海道ボールパーク Fビレッジのお仕事編

本小冊子「未来のしごとの参考書」は、株式会社北海道
アルバイト情報社が、北海道ボールパークFビレッジの
仕事や、エスコンフィールドHOKKAIDOで働く人たちの
声や想いを伝えるために製作したフリーマガジンです。

03 北の大地に
生まれたまちを
支える、働く人たち。

05 F VILLAGEの
おしごと辞典
F VILLAGEで
働くというコト

07 株式会社北海道日本ハム
ファイターズ
鍵谷 陽平さん

11 東洋グリーン株式会社
加古 暁さん

15 スタジアムDJ
エバンス・マラカイさん

21 株式会社ファイターズ
スポーツ&エンターテイメント
高取 遥さん

13 選手の体を支える
選手タイニングに潜入！
突撃！選手ごはん！
あんな場所や、こんな所でも。
安心！快適！は
私たちにおまかせ！

23 選手に負けない！
自慢のユニフォーム
大公開SHOW！

25 Fビレッジで活躍するヒトに
聞いてみた！
うれしかった
あの瞬間を教えてください！

27 F VILLAGEに
新たなファンや仲間を。

29 前沢さんから若者たちへ、
伝えたい言葉。
遊ぶように、
仕事をしよう。

株式会社ファイターズ
スポーツ&エンターテイメント
常務取締役開発本部長
前沢 賢さん





◎北海道ボールパークFビレッジ
北海道北広島市に広がる約32ヘクタールのコミュニティエリアです。プロ野球・北海道日本ハムファイターズの本拠地「エスコンフィールドHOKKAIDO」を核として、未来型のまちづくりが進められています。

◎エスコンフィールドHOKKAIDO
敷地面積約5ヘクタール、観客定員は3万5,000人。地下のフィールドから地上4階層まで観覧席が配置された開閉式屋根付き天然芝球場です。宿泊機能や温浴施設、クラフトビール醸造レストランなどを完備したスタジアムです。

北の大地に 生まれたまちを 支える、働く人たち。

北海道の雄大な自然に囲まれた「北海道ボールパークFビレッジ」は、これまでの野球場のイメージを覆す、新しい「まち」として誕生しました。
ここは野球ファンだけでなく、ファミリー、学生、地域の人々などが自然に集まる特別なエリア。「エスコンフィールドHOKKAIDO」でのスポーツ観戦はもちろん、最新のライブエンターテインメントに触れたり、豊かな自然の中で心身を整えたり、新たなカルチャー

や学びに出会うなど、年齢や国籍、趣味を超え、あらゆる人が想い思いの時間を過ごし、夢や理想を実現していく「共同創造空間」なのです。
人と人が出会い、笑顔が生まれ、新しいコミュニティが育まれていく。北の大地に生まれた「まち」を支えている、さまざまな「働くひと」をご紹介します。

コミュニティをつくる しごと

エリアを訪れる人々に新しい体験やつながりを提供し、Fビレッジ全体に活気あふれるコミュニティを生み出す仕事。

球場を盛り上げる しごと

球場へのナビから場内の案内、グルメ、グッズ販売、アミューズメントコーナーなど、ゲーム観戦や来場体験を盛り上げていく仕事。

チームを支える しごと

選手のパフォーマンス向上やチーム運営に携わるなど、ファイターズというプロチームを直接的・間接的に支える仕事。



©H.N.F.

Fビレッジはこんな仕事でできています！



【入場チェックスタッフ】
チケットや手荷物の確認など
入場時の対応を担当します。

【チケット売り場スタッフ】
来場者を最初に迎える顔と
して対応します。

【グラウンド内進行補助
スタッフ／ボールパーソン】
審判などにボールを渡すなど
試合進行を円滑に進めます。

【記者・スチールカメラマン】
試合の様子を記録し新聞な
どのメディアで伝えます。

【試合実況・解説】
試合の状況などをわかり
やすく伝える役目です。

HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE
・ Job Dictionary ・

F VILLAGEの おしごと辞典

お客様の送迎、球場での案内、おいしさの提供や多彩な演出…
Fビレッジでは、たくさんの働く人たちが活躍しています。

【セキュリティスタッフ】
来場者の安全と秩序を守る
ために巡回・対応します。

【清掃スタッフ】
Fビレッジ内を清潔に保つた
大切な仕事です。

【接客・販売スタッフ】
来場者への接客と商品の販
売を行います。

【調理スタッフ】
球場内の多彩な飲食ブースで
おいしい料理を作ります。

【ビールの売り子】
球場のスタンド席を回って元
気にビールを販売します。

【グッズショップスタッフ】
球団グッズの販売や接客を担
当します。

【ボランティアスタッフ】
場内の案内業務などを無償
で支えてくれます。

【インフォメーションスタッフ】
来場者の疑問や困りごとに
対応する窓口です。

【商品企画開発】
グッズの企画開発や発注、納
品管理を行います。

【広報】
球団の魅力を外部へ発信す
る役割です。

【営業】
スポンサーや広告などの営業
を担当します。

【マーケティング】
ファン獲得に向けた戦略を企
画・実行。

【タクシー運転手】
来場者のスピーディーな移動
をサポートします。

【バス運行管理スタッフ】
試合日のバス運行をスムーズ
かつ安全に管理します。

【バス運転手】
Fビレッジを訪れるお客様の
移動を安全に支えます。

【配送スタッフ】
Fビレッジ内の物品運搬や納
品を担当します。

【ドッグランスタッフ】
愛犬と飼い主が安心して過
ごせる場を整備。

【インストラクター】
アクティビティを安全に楽し
めるよう指導を行います。

【保育スタッフ】
子どもたちの成長を見守り
支える仕事です。

【プレイリーダー】
子どもの遊びをサポートし、
遊び場の環境を整えます。

【ビール醸造家】
球場オリジナルビールの開発・
製造を担います。

【イベント企画スタッフ】
スポーツを軸にしたイベント
や海外向け企画を立案。

【農業学習ツアースタッフ】
農業体験を通じた学びを提
供する役割です。

コミュニティをつくるしごと

【医師・看護・介護スタッフ】
健康管理と緊急時の対応を
担います。

【ホテルレセプションスタッフ】
宿泊客のチェックイン・案内を
担当します。

【パン職人】
毎日おいしいパンを焼きあげ
ています。

【通訳】
外国人選手とチームを言葉で

【マネージャー】
選手の道具管理や遠征移動
の調整などを担当します。

【用具係】
グラブやバットをメンテナンス
し、選手の戦いを支えます。

【栄養士・調理スタッフ】
選手の体調管理や身体作り
に食事面で貢献します。

【スポーツデータアナリスト】
データを活用し戦略や選手
育成を支援します。

【トレーナー】
選手の身体や心のケアを行い、
パフォーマンスを維持。

【打撃投手・
ブルペンキャッチャー】
選手の練習相手として投球・
捕球を行う専門職。

チームを支えるしごと

つなぐ橋渡し役です。

【グラウンドキーパー】
選手が安全にプレーできるグ
ラウンド状態を維持します。

【球団スカウトスタッフ】
全国を飛び回り、未来のス
ター選手を発掘。

【球団フロントスタッフ】
経営・企画・営業・マーケティ
ングなど球団全体の方針や
経営を担う中枢スタッフ。

球場を盛り上げるしごと

【球団マスコット＆
ファイターズガール】
バク転やダンスで、ファンと一
緒に球場を盛り上げます。

【スタジアムロー】
選手の呼び出しや試合に必
要なアナウンスを行います。

【チア運営管理】
ファイターズガールのスケジュー
ルや衣装の管理を担当。

【試合進行ディレクター】
試合中の演出や演目の流れ
を指揮します。





誰にも負けなかった 野球に対する情熱。

北海道日本ハムファイターズの投手として活躍し、2025年から球団のベースボールオペレーション部の一員としてチームを支える鍵谷陽平さん。し烈なプロ野球人生を歩んできた彼が今、新たな立場で野球とどのように向き合っているのか。エスコンフィールドの一室でお話を伺いました。

鍵谷さんが野球を始めたのは、5歳の時。その後小学校、中学校と七飯町で野球を続けます。

「本格的に野球に打ち込み始めたの

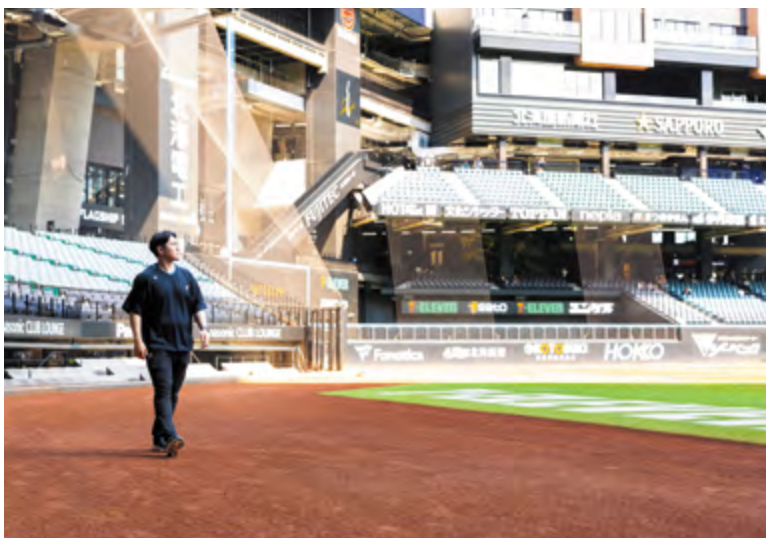
長所を伸ばしてくれた ファイターズ流の指導。

鍵谷さんのプロ野球人生はおよそ13年。そのうち8年をファイターズで過ごしました。

「ファイターズに入団したからこそ、プロの世界で活躍できたと言っても過言

は高校時代。さらに中央大学に進学し、澤村拓一さん（現千葉ロッテマリーンズ）を筆頭に高いレベルの選手たちと出会い、そこで初めてプロへの意識が芽生えたような気がします。とはいっても自分がそのレベルに達しているのか、当時はまだまだ手探りの状況でした」
決して平坦ではないプロへの道。挫折しそうになることもあったのでは？
「スランプに陥ったり、自分より上手い選手を目の当たりにしたり…落ち込むこともありましたが、それでも諦めることはなかったですね。誰より真剣に、常に真摯に、野球に取り組んでいるという想いが、いつか必ずプロになるという自信につながっていたのかもしれない」

ではないと思っています。僕は大学時代からストリートで勝負するタイプで、変化球が苦手な上にコントロールが定まらないという課題を抱えていました。でもファイターズはそういった弱点を補うのではなく、長所のストリートに磨きかけるという指導をしてくれたんです。おかげで新人で一軍登板を果



チームのためにできることを、
自ら考え、実践していく。
それが今の僕の仕事です。

F VILLAGEで
働くというコト

株式会社
北海道日本ハムファイターズ
チーム統轄本部
ベースボールオペレーション部

鍵谷 陽平さん
(2025年入社/34歳)

たすことができ、その後も11年間、投手として現役を続けることができました。先輩や後輩はもちろん、球団関係者やスタッフなど、関わる人たちの仲が良く、ファミリー感到満ちていたのもファイターズの特徴。巨人に在籍した期間もありましたが、それでも現役最後の一年をこの球団で過ごすことができ、本当に幸せだったと思います」



現在鍵谷さんは、ベースボールオペレーション部の一員として新たなスタートを切っています。この部門はデータを集積するスコアラ、それを分析するアナリスト、育成に長けた経験者やコーチ、スカウトや採用担当など、各分野の専門家が効率的な連携を図りながら選手指導や球団運営に取り組み、現代ベースボールを象徴するようなセクションだとか。

「世間では新たに誕生した部門のように扱われていますが、実はアナリストもコーチングスタッフも以前から在籍していたんです。CBO（チーフ・ベースボール・オフィサー）の栗山さんが某テレビ番組でこの部門の必要性を話されたことをきっかけに、注目を集めたようです」



自ら考え行動するのが所属部門の役割。

新部門における鍵谷さんの仕事について尋ねると、「現時点では、自分がベースボールオペレーション部に所属していること以外に、細かく指示は受けていません」との答えが。「ベースボールオペレーション部は、決まった役割に縛られるのではなく、それぞれが球団や選手のために何をすべきかを見つけ、自分の責任と目標に向かって活動していく部門なんです」

これまでの経験、自分ならではの体験があるからこそ、今後も力を発揮できる：鍵谷さんは現在の環境を前向きに捉えています。

「選手が怪我をしないように注意事項を伝えたり、コーチと選手の連絡役を買って出たり。さらにキャッチボールの相手、用具の整理、広報の手伝いなど、人手が足りないところにどんなスポットが入っています。最近は自主練習中の投手データとアナリストやコーチの意見を照らし合わせ、選手と一緒に投球の組み立て方などを話す機会も増え始めています」



「チームのために」を最優先するのが使命。

配属から半年。この間のご自身の取り組みに、手応えは感じているのでしょうか。

「現時点では、自分の行動が直接的に結果につながっているという実感は正直まだありません。でも、ファイターズがベナントレースの上位に立ち、選手たちが素晴らしい成績を収めている様子を見ると、ベースボールオペレーション部のメンバーや球団スタッフ、コーチ陣などの日々の努力の積み重ねがよい結果を生む土台となっていることを実感しています」

まさに縁の下の力持ちですね。

「自分もそうなるために、最近では試合後の投手サポートに注力しています。たとえ結果が悪くても『ダメだった』で終わらせるのではなく、『今回のピッチングはどうだったか』『良かったのはどこか』『何が原因で負けてしまったのか』をしっかりと整理できれば、次に向かう選手たちの糧になるはずですかね」

お話を伺っていると、現役時代と現

在では野球の見方がかなり違っているような：

「選手時代は『自分が活躍するために』という視点でしたが、今は『ファイターズが勝つために』『ファイターズが世界一愛される球団になるために』という視点で野球を見ています。立場が違くと全く別のスポーツのようにさえ見えてくるから不思議ですよ」

ファイターズを支えるさまざまな仕事。

エスコンフィールドの誕生などもあり、道内でも野球に関わる仕事への注目度がアップしているようです。

「かつては限られた職業しか関われないスポーツでしたが、我々ベースボールオペレーションをはじめ、メーカーの用具開発、通訳や栄養士など、野球に関わる仕事は驚くほど増えていると思います。エスコンフィールドを見ても、施設を運営する人たち、お客様の案内や警備をする方々、飲食や販売スタッフ、バスやタクシーの運転手など、多種多様な職業の方が働いていて、その一人ひとりがファイターズを支え、

ゲームを盛り上げてくれているんです」

選手や指導者じゃなくても、野球に関わる仕事ができるということですね。「肝心なのは野球を好きでいること。好きであれば、野球に関わる職業に就きたいと思うでしょうし、その仕事を長く続けたいとも考えるでしょう。野球に限ったことではありませんが、若い人たちには、この『好き』という想いを大切にしてほしいですね」

株式会社 北海道日本ハム ファイターズ

パシフィック・リーグのプロ野球球団「北海道日本ハムファイターズ」を運営しています。フランチャイズを北海道に置き、エスコンフィールドHOKKAIDOが本拠地。
<https://www.fighters.co.jp/>





選手の意見を聞いて、 フィールドを常に改善。



野球を観戦する人にとっては、球場のフィールドがきれいに整っているのは当たり前。ところが、選手の中には、芝生や土を整備する縁の下で力持ちがいるんです。それがグラウンドキーパーという仕事。東洋グリーンの加古曉さんも、その一人です。

「4年ほど前、エスコンフィールドのグラウンドを造成する話が舞い込みました。オープンに向けた工事を担うだけではなく、その後の維持管理も請け負う仕事だったため、『芝と土』に携わり続けられることにおもしろみを感じました」

グラウンドの造成にあたり、加古さんは他球場のフィールドを管理している人に話を聞きに行ったり、時には海外視察に出かけたりした上で、設計段階から工事に携わったそうです。

「例えば、内野と外野で土を変えたり、マウンドはピッチャーの踏み込む力に負けないように硬い土を採用したり、場所や役割によって硬さを変えています。芝生も気候や湿度、球場に屋根が付いているかどうかで選び方が異なるんです」

加古さんは新球場の開業後も、選手の意見を聞きながら少しずつフィールドをアップデートしています。

「これまでも芝生の柔らかさやボールの跳ね具合などのフィードバックがあった際に、指摘の部分を微調整してきました。使用感を伺って改善する…その繰り返しで、より野球のしやすいフィールドを目指しています」

極端なことをいえば、グラウンドキーパーの仕事の結果によって、ボールがイレギュラーバウンドするなど、試合の展開を左右することもあり得るはず。プレッシャーはないのでしょうか。

「選手から『プレーしやすくなった』といわれるのもうれしいですし、観客の方がフィールドを見て感動してくれるのもやりがいになります。そのリアクションがあるからこそ、仕事に重圧を感じず、楽しんで取り組めるんです。今後も、この球場の素晴らしい建物に負けないよう、フィールドも世界一と呼ばれるまで進化させていきたいですね」



東洋グリーン株式会社

<https://www.toyo-green.com/>

F VILLAGEで
働くというコト

東洋グリーン株式会社
グラウンドキーパー

加古 曉さん
(2015年入社/44歳)

野球がしやすく、
美しいフィールドを！



ドリンクバーにはアーモンドミルクや豆乳が用意され、好きなフルーツを選んでスムージーを作ることできる。



試合日の選手ごはん（一例）

豚肉のソテー おろしソース添え
味噌汁
サラダ（ちりめんじゃこトッピング）
グリルフィッシュ

目玉焼き
玄米ご飯（キムチ、明太子）
サラダチキン
フルーツスムージー

選手の体を支える
選手ダイニングに潜入！

選手ごはん！

スポーツ選手にとって練習と同じぐらい大切な食事。エスコンフィールドには練習や試合の前後に選手が食事をする専用レストラン「選手ダイニング」があり、選手の身体づくりやコンディショニングをサポートしています！



たくさん食べる選手がいる一方、試合前は満腹になりすぎないようにと、食べる量をコントロールする選手も多いそう。



野菜を食べて
栄養バランスも
バッチリ！



株式会社北海道グリーンハウス
北海道日本ハムファイターズ
選手ダイニング支配人
・管理栄養士

小鹿 真由子さん

食材の発注や衛生管理、スタッフのシフト管理も担当。「選手に貢献したい」とエスコンフィールドへの赴任を希望。

人気メニューは カルボナーラ！

球団公式 YouTube の企画で選手のアイデアも取り入れて考案したカルボナーラが人気。



外国人選手のための料理も！

海外からの選手も多く活躍するファイターズ。お国柄に合わせてトルティヤやピザ、ハンバーガーなどを提供することも。

株式会社北海道グリーンハウス

<https://www.greenhouse.co.jp/>



ご飯は白米、
玄米から選択可能。

リクエストも
おまかせ！



株式会社北海道グリーンハウス
北海道日本ハムファイターズ
選手ダイニング料理長

星 淳男さん

18歳から飲食業界一筋。省庁やテレビ局、電機メーカーの食堂などで腕を振るい、長年働き盛りの人の食を支えてきた。

勝利につながる一皿を！
全力プレーの後押しになる
料理を提供しています。

選手ダイニングでは、11時から軽食を、15時からメインの食事を提供。試合が終わった後で立ち寄り、食事をしてから帰宅する選手も。

エスコンフィールドの一角にあり、ファイトーズ選手たちの食事を提供している「選手ダイニング」。球場に来た選手たちは日々ここで食事をし、練習や試合に臨んでいます。ピュッフェ形式でメニューは日替わり。肉や魚、麺類や丼ぶり、小鉢やサラダ、フルーツなどがずらりと並び、目的やコンディションに合わせて自ら料理を選択します。

料理長としてエスコンフィールド開業時から腕を振るうのは、この業界で40年以上のキャリアを誇る星淳男さん。「利用するのは選手・スタッフを含め80名ほどです。若い選手が多いので、食べ応え」は重視するポイント。味はもちろん、素材や下ごしらえにもこだわっています。

メニューは支配人の小鹿真由子さんと共に作成。選手個人からの要望の他、球団からのリクエストにも積極的に対応しています。

「同規模の食堂とはお肉の使用量も桁違い。最初はこんなに使うの？と驚いたほどです」と小鹿さん。ここでの食事は選手の身体づくりに直結するという意識でメニューを考えていると教えてくれました。

この一皿が勝利を引き寄せる。そんな気持ちになれるのも、ここで調理に携わる醍醐味だと星さん。

「選手が活躍すると『あの料理を食べたからかもしれないね！』と、スタッフ皆で喜びを分かち合っています」



「引き寄せの法則」を信じ W杯の大舞台で活躍！

「フランミール・レイイイー・エス」
エスコンフィールドでの試合を見た
ことがある人なら、誰しもが特徴的な
英語のアナウンスを聞いたことがある
はず。声の主はエバンズ・マラカイさん、
29歳。ご出身は欧米かと思いきや、実
は生まれも育ちも生粋の北広島人な
のだそう。

幼い頃からスポーツに親しんでいた
マラカイさんは、サッカー、バスケット
ボール、ラグビーとさまざまな競技を
経験。ですが、スポーツを仕事にする
ことは考えていなかったとか。

「子どもの頃は何でも挑戦してきた
反面、これという夢はなかったんです。
ただ、せつかなら自分にしかできな

3万5千人の感情を
「声」で揺さぶり
喜びを届けたい！



F VILLAGEで
働くというコト

スタジアムDJ
エバンズ・マラカイさん
(2023年就任/29歳)

球場でのスカウトから スタジアムDJの道へ。

い仕事がしたくて、強く願えばいつか
自分に合った仕事が舞い込むと信じ
てました」
そんな「引き寄せの法則」はマラカ
イさんの人生で次々と発動されていき
ます。札幌の大学在学中、アルバイト
先のカフェでスカウトを受け、卒業と
同時にスポーツの通訳としてキャリア
をスタート。2019年のラグビーW
杯では、フィジー代表の公式通訳とい
う大役も担い、大好きなスポーツを仕
事にする喜びを実感したそうです。

2020年には上京も経験し、恋愛
リアリティーショーの出演やモデルな
ど芸能の世界にも挑戦したマラカイさ
ん。2021年からはプロバスケット
ボールチーム「仙台89ERS」のア
リーナMCとして活躍してきました。
再び「引き寄せの法則」が訪れたの
は2023年。故郷・北広島市にオー
プンを迎えたエスコンフィールドに家
族で訪れ食事をしていたところ、スー
ツ姿の男性から突然声を掛けられま

す。

「『Where are you from? (どこか
ら来たの?)』と聞かれて、名刺交換
をすると、そこに書かれていたのはフ
ォイターズの名前。男性の正体は球団の
お偉いさんだったんです」

後日、男性からの連絡で再び球場
を訪れたマラカイさんが案内されたの
は、球場全体が見渡せるコントロール
ルーム。そこでマイクを渡され、選手
の名を読み上げるよう求められたの
です。

「まさかオーディションが始まるとは
予想していませんでしたし、スタジアム



DJが何を、どんな風に話しているかも意識したことがありませんでした。『メジャーリーグを意識して』というヒントだけを頼りになんとか読み上げたところ、皆さんがヒソヒソと話し始めて…」

結果はなんと、その場で合格。急な展開に驚きつつも、2023年7月1日よりエスコンフィールドのスタジアムDJへの就任が決まりました。

「声」だけで盛り上げる難しさを、持ち前の向上心で解決。

スタジアムDJとしての1年目は「試合のたびに頭がパンクしそうになった」と振り返るマラカイさん。実は日本のプロ野球の世界には厳しいルールがあり、読み上げる台詞があらじめ決められているのだそう。

「例えば、打順や代打、選手交代といった『情報』はハッキリと日本語で伝えなければなりません。繰り返しの場合は英語を混ぜたり、抑揚をつけて話すのは認められていますが、基本的には背番号やポジション、名前といった最



低限の情報だけ。『声』だけで盛り上げなければならぬ点に難しさを感じました」

現在のスタイルが確立されたのは、就任から1年ほどが経った頃。「自分の発するコール一つで会場の熱量が変わると気付いたんです」スポーツは「エンターテインメント」であるという認識を持つようになり、自身の役割を「情報を伝える人」ではなく「演出」として、喋り方にもこだわりを持つようになったといいます。

「より盛り上げるためにどうしたらいいの。昨日より今日、今日より明日…と日々スキルアップを意識して、常に最高のコールを探求し続けてきました」



「！」とコールすること」と即答するマラカイさん。しかし、それ以上に大切にしている想いがあるといいます。

「僕は自他共に認める『健康オタク』で、ヘルスコーチとして活動もしています。その中でわかったのは、感情を表に出す行為が健康にとってめちゃくちゃ大事なこと。と言っても、日常生活で頻繁に怒ったり泣いたりできないですよ。だからこそ、この球場では、勝利の喜びや感動も、敗北の悲しみも悔しさも全部、爆発させてほしい。僕がマイクを通じてみんなの感情を引き出すことで、球場に集まった3万5千人を健康にする。それが僕の使命だと思っています」

最後に若者の皆さんへのエールをお願いしますと、こう答えてくれました。「僕はたとえ余命があと1年だとしても、特別なことはせず今の仕事を最大限楽しんでやりきたい。それくらい、この仕事が天職だと日々実感しています。好きなことを突き詰めた先にきっと、ビッグなステージが待っているはず。まずは自分が何を愛しているのか、探ってみてください」

コンマ一秒も計算し、ファンの気持ちを代弁。

マラカイさんのプロ意識は、まさにアスリート級。試合前の打ち合わせでは、入場の際に流れる映像や音楽の演出をインプット。本番では声の高さや強弱、息の溜め、伸ばし方などすべてをコンマ一秒単位で計算し、選手名を読み上げます。

「特に大切にしているのは、選手一人ひとりの過去や活躍を徹底的に調べること。例えば、怪我から長い治療を経てようやく復帰した選手であれば、待っていたファンの期待感が大きいですよ。だから『溜め』は長く、徐々に大きくすることを意識して、『あの選手がついに帰ってきた』という想いを代弁しています」

マラカイさんはSNSでコールの舞台裏を公開しています。中には、マイクを切った後、興奮を抑えきれず歓喜に叫ぶ姿も…。

「あくまで自分は『マイクを持ったファン』なんです。ファンの皆様と同じ目線で、喜怒哀楽や「喜」「憂」のすべてを一緒に楽しみ、感動を共有したい。新庄





【運送のおしごと】

フォークリフトや
台車、伴走ロボを
活用し広大な
敷地に荷物を配達!

飲食店の食材や飲料、グッズまですべての運搬を担当しています。ビール樽を運び、売り子さんの背中に装着するのも私たちの仕事。試合時には重い樽を1,000個以上運ぶために、最大1トンまでけん引できるロボットも活用しています。

ヤマト運輸株式会社
<https://www.kuronekoyamato.co.jp/>



風間もしっかり警備します!



【造園・管理のおしごと】

緑豊かな球場を守り
「北海道らしさ」を
皆様に表現しています。

Fビレッジをつくる時に造園計画を手掛け、現在は芝や樹木の維持管理を担当しています。球場を訪れた人が最初に目にするのは私たちの仕事。日々構内をめぐりながら、草刈りや樹木の生育状態のチェックを行いきれいな緑を守っています。

株式会社コクサク
<https://www.kokusaku.jp/>



こまめな
温度チェックで
快適な環境に!

【設備管理のおしごと】

エスコンフィールドの
屋根を操作!
快適に観戦できる
環境維持も仕事です。

エスコンフィールドのシンボルとも言える開閉式屋根の操作を担当しています。可動屋根としては世界最大級で、その動きは一見の価値アリ! 照明や空調の管理も私たちが担い、客席の温度もしっかりチェックしています。

株式会社東急コミュニティー
<https://www.tokyu-com.co.jp/>

【清掃のおしごと】

ロボットやセンサーも導入!
ヒトと技術の二つのチカラで
衛生と快適を守っています。

観客席から選手の控え室まですべての清掃を請け負っています。試合日はゴミの回収も重大任務。ゴミ箱内部に赤外線センサーをつけ常時監視し、80%を超えると回収に走ります。50台超の清掃ロボットも活躍中!

東京美装北海道株式会社
<https://www.tokyo-biso.co.jp/hokkaido/>



【警備のおしごと】

夜も安心! 24時間体制で
安全を守っています。

試合日以外もたくさんの人が訪れ、焚き火ができるグランピングなどの宿泊施設もあるFビレッジ。私たちは24時間体制で施設警備を行い、不測の事態があれば深夜でも対応。利用者の安全を陰で支えています。

ヒトヒト株式会社
<https://www.hitotohito.co.jp/>

あんな場所や、こんな所でも。

安心! 快適! は
私たちに
おまかせ!

Fビレッジを陰で支える仕事に
クローズアップ。

最先端
AIカメラも
導入!



【駐車場管理のおしごと】

混雑や事故を防ぐために
100台を超えるカメラと
人の目で常時監視!

周辺を含めると約4,000台分の駐車場を備えるFビレッジ。試合時の混雑を防ぐために、電子チケットに紐付けされた車両ナンバーを100台以上のカメラで認識。AIモニターによる監視、警備員による声かけで、車両と人の安全を守ります!

三菱地所パークス株式会社
<https://www.mec-p.co.jp/>



ファイターズらしさを大切に 心に残る観戦体験を。

球場での観戦やファンの証として欠かせないファイターズグッズ。選手とおそろいのユニフォームや名前入りのタオル、ロゴ入りお菓子など、手にするだけで胸が躍るという人は多いはず。それらの企画開発を担うのがマーチャンダイジンググループの高取遥さんです。

「もともとは北海道民としてチームを応援していた一人。優勝争いで盛り上がった2016年、偶然、球団スタッフ募集を見かけ、自分も何かで貢献したいと応募を決めました。入社した2017年は大谷選手が在籍した最後の年。わずか半年ですが同じチームの一員でいられたことは今でも自慢です」

面接で訪れた球団事務所では、スタッフが生き生きと働く姿に胸を打たれたそう。チームに関わることはもちろん、「この人たちと働きたい」という想いが入社を決め手になりました。

「一口にファイターズグッズと言っても球団公式グッズや企業が販売するライセンス商品など多くの種類があり、そのすべてのデザイン監修と品質管理に携わるのがマーチャンダイジングの役割。『えふたん』グッズも私たちが企

画しています」

高取さんがこの仕事で大切にするのは、ファンが「ほしい」と思うタイミングで商品を届けること。しかし、いつ、どの選手の人氣に火が付くかの予測は簡単ではありません。

「チャンスでホームランを打った選手のタオルが直後に完売になる…なんてこともしばしば。だからこそ、お客様が何を求めているかには常に目を配り、ニーズに合わせてスピーディーに商品を届けることを心がけています。もちろんファイターズグッズとしての品質も守らなければならず、そのあたりに頭を悩ますことは多いですね」

とはいえ、選手が活躍する、チームが活気づくこと自体は喜ばしいこと。ファンの気持ちに寄り添えた時に、大きなやりがいを感じると話します。

「私たちが一番大切にしているのは、球場に来てくださったお客様に『忘れられない一日を届ける』というミッションです。グッズは単なるモノではなく、観戦体験の一部であり、思い出を形にする重要な要素。ファンとチームの絆になるような商品づくりに、これからも取り組んでいきたいと思っています」

株式会社ファイターズ
スポーツ&エンターテインメント
<https://www.hkdballpark.com/>



「また球場に！」につながる
グッズをファンに届けたい。

F VILLAGEで
働くというコト

株式会社ファイターズ
スポーツ&エンターテインメント
マーチャンダイジンググループ

高取 遥さん
(2017年入社/38歳)



Which one
do you like?



ここが自慢!
【リボン】

女性スタッフはリボン、男性はネクタイ。色はブルーで統一。



ここが自慢!
【インカム】

スタッフへの指示、上司への連絡はインカムでスマートに。



ここが自慢!
【タンク】

重さは約20キロ。たくさん買っていたけど軽くなるのが喜び。



ここが自慢!

【金のユニフォーム】
デザインを手掛けたのは、EXILEなどが所属する(株)LDH。



ここが自慢!
【ひまわり】

売り子の先輩から受け継いだヘアアクセ。「ひまわりの子」と覚えてもらえる。

ここが自慢!
【サポーター&タイツ】
ビールを注ぐ時に膝をつくのでサポーターは必須。目立つように白で統一!



ラウンジスタッフ

株式会社北海道グリーンハウス 安田優花さん

ダイヤモンドクラブシートをご購入いただいたお客様だけがご利用できるラウンジで、受付やホールスタッフへの指示などを担当しています。全日空がスポンサー様なのでユニフォームはCAのイメージを取り入れつつ、上質なおもてなしと親しみを感じていただけるようなデザインとなっています。お客様からの感謝の言葉が、私にとっての最高のごちそうです。

ビールの売り子

株式会社ヒト・コミュニケーションズ まひろさん

タンクを背負って販売していると「大変でしょ」と言っていたことも多いのですが、お客様の笑顔や「ありがとうございます」の言葉を聞くと自然と頑張ってしまうんです。金のユニフォームは売上上位の売り子だけが着られる特別仕様。お客様にはビールだけでなく、「エスコンフィールドに来て楽しかった!」という思い出も一緒に提供できればと思っています!

エスコンフィールドのあちこちで目にする、
いろんな仕事のいろんなユニフォーム。
そのデザインに込められた、
こだわり&推しポイントをご紹介します。

自慢のユニフォーム 大公開SHOW!



ここが自慢!
【キャップ】

このデザインのキャップを被れるのは、警備スタッフだけ!

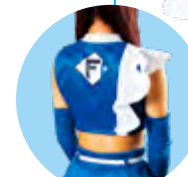


ここが自慢!
【バックプリント】
さらにレイアウトされたSECURITYの文字がオシャレ!



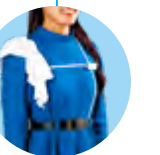
チアVer.

スタジアム
ツアーVer.



ここが自慢!
【ロゴマーク】

背面にあしらわれたロゴでしっかりと球団もPR! 髪の毛の間から見えるのがお気に入り。



ここが自慢!
【フリルやライン】
アクセントになっているフリルはチア用と実は素材が違って、ツアー用は全体的に落ち着いたデザイン。

警備員

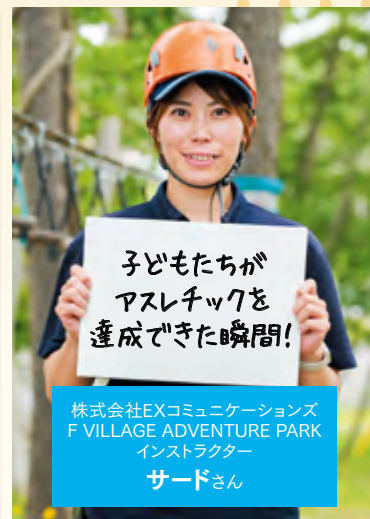
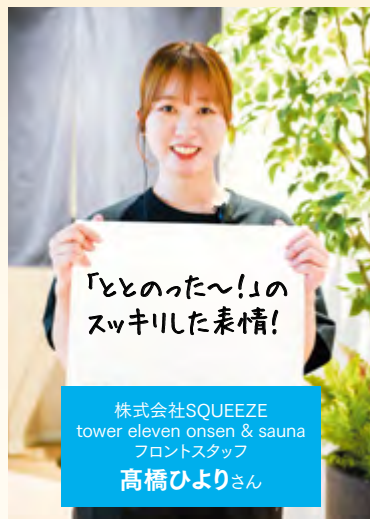
株式会社北海道シミズ 清川翔生さん

プロ野球が大好きなこともあり、エスコンフィールドの開業時から警備スタッフのバイトをしています。このユニフォームは、ファイターズ球団がデザインしてくれたもの。ホスピタリティや親近感が大切な仕事なので、一般的な警備員の制服に比べるとかなりカジュアル。そのおかげか、お客様から話しかけられる機会も多い気がします。サラッとした着心地も気に入ってます。

ファイターズガール

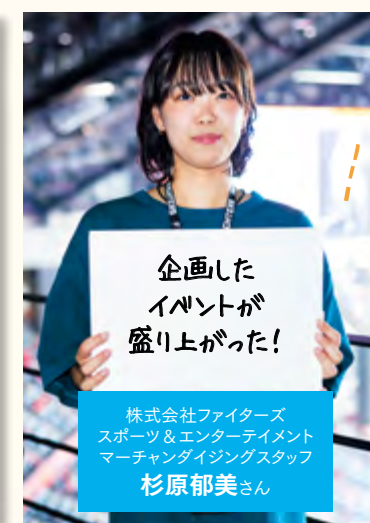
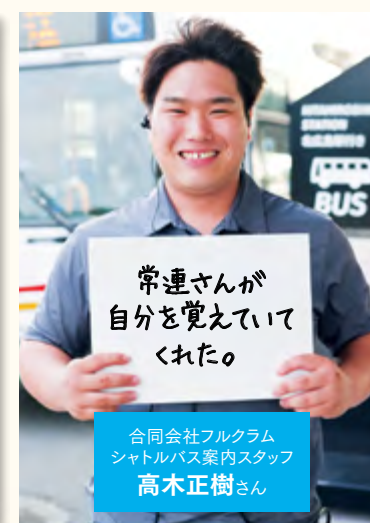
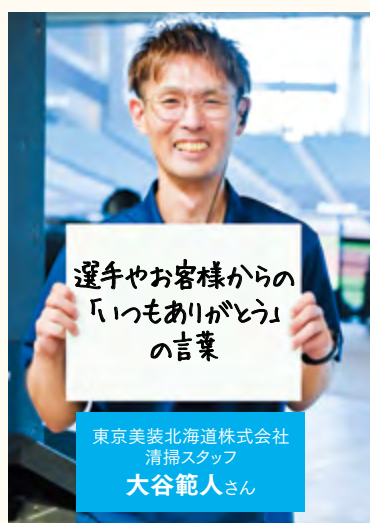
水落桃子さん(左)・桜子さん(右)

「おなじみのチア用とスタジアムツアー用の2種類。チア用は動きやすさ重視で、遠くから見ても球団コンセプトカラーのブルーが映えるデザイン。袖を通すと『やるぞっ』と気合が入ります! (桃子さん)」 「スタジアムツアー用はガイドをイメージした上品なデザインで、夏用の半袖や防寒対策のコートもあり機能性も抜群。球場の魅力をしっかりと伝えます! (桜子さん)」



／ Fビレッジで活躍するヒトに
聞いてみた! ／

うれしかったあの瞬間を 教えて!



お客様の笑顔が
私たちにとっての
ホームラン!



食と農業に向き合う仲間を増やしたい！

農業経営ゲームが大人気！



KUBOTA AGRI FRONT
コミュニケーター 森下久美さん

●株式会社クボタ
<https://www.kubota.co.jp/>

「KUBOTA AGRI FRONT（クボタアグリフロント）」は、1年を通して「食」と「農業」に触れられる場所。今、フードロスや農業の担い手不足など、食と農業にまつわる課題はたくさんあります。私たちはコミュニケーションは、展示やシアター、農業経営ゲームなどを通じて、次世代を担う方々にこうした「宿題」を解く手がかりやヒントを提供する

のが役割。例えば、好き嫌いをなくすことや給食を残さず食べることも、課題解決になるのだと知ってほしいと思っています。野球ファンが試合前にふらりと訪れてくださることもありますし、子どもたちが親御さんを連れてリピートしてくれるなど、食と農業の課題に向き合ってくれる仲間が増えていく実感が湧くのもやりがいです。

試合のない日にも、来てくれるファンを！

地元の大学ともコラボ！



そらとしば by よなよなエール
醸造士 三田昂平さん

●株式会社ヤッホーブルーイング
<https://yohobrewing.com/>

「そらとしば by よなよなエール」は、エスコンフィールド内のクラフトビール醸造レストランです。試合が白熱すると席を立つ方がなくなり、ビールを買いに来る方が減るのがひとつの特徴でしょうか（笑）。飲んでいただくお客様との距離が近いのも「そらとしば」ならではの。自分たちの手掛けたビールを目の前で楽しんでもらえて、時には直接「おいしかった」という言葉を聞けるのが大きなやりがいになります。他にも醸造所見学でお客様に素材や造り方を解説したり、産学連携の一環として酪農学園大学で栽培されたライ麦で季節限定ビールを醸したり、ユニークな取り組みに携われるのも、おもしろさの一つ。今後は試合のない日にも「このビールが飲みたい」と来てくれるファンを、もっと増やしていきたいです。

野球とは違った角度から、新しいコミュニケーションを生み出す人たち！

F VILLAGEに

新たなファンや仲間を。

小さなコミュニティで多様なにぎわいを。

Fビレッジは、スポーツを軸としたまちづくりを現在も進行中です。今後、オフィスや大学といった施設が増えていく中、子どもや学生、シニアなどさまざまな人が交流できる多様性がにぎわいを生み出すカギになると思います。そのために必要なのが、同じ趣味や好きなことに熱量高く取り組む小さなコミュニティ。僕は多彩なプロジェクトを進める中でも、「ウェルネス」をキーワードにした企画も手掛けています。例えば、球場内のフィールドでヨガを楽しんでもらったり、月に1〜2回「朝ラン」で汗を流す時間を作ったり、子どもたちを対象としたスポーツフェスも開催しました。こうした体験を通じて仲を深める人々を増やし、笑顔の輪を広げていきたいですね。

ヨガや朝ランで健康に！



開発本部
開発・企画統括部 事業企画部
部長 酒井恭佑さん

●株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメント
<https://www.hkdballpark.com/>

球場の中であそびを通じた思い出づくり！

ボーネルンドは、あそび道具の販売やあそび場の運営など、「あそび」を通じて子どもたちの生きる力を育んでいます。「PLAYLOT」は、「スポーツ×あそび」をテーマにした球場内のお遊び場です。地域のお客様に加え、野球ファンや旅行中の方など、幅広い層に楽しんでいただいているのが大きな特徴。低年齢層が中心の既存店舗とは違って、小学生も多いため、体を動かしたダイナミックなあそびや「できた」を経験してもらうチャレンジングなアプローチも提案しています。さらに、北海道日本ハムファイターズと連携してイベント時にワークショップを開くなど、球場というコミュニティの中で多くの人にあそびを介して楽しい思い出を持ち帰ってもらえるのも大きな手応えです。

ファイターズとの連携も！



リポビタンキッズ
PLAYLOT by BorneLund
プレイリーダー 角田空哉さん

●株式会社ボーネルンド
<https://www.bornelund.co.jp/>

前沢さんから若者たちへ、伝えたい言葉。

MESSAGE

遊ぶように、仕事をしよう。

北広島市に球場を抱く壮大なまちをつくる。ボールパークプロジェクト実現の中心的な役割を果たしてきたのが、前沢賢さん。Fビレッジに寄せる想い、さらに若者へのメッセージを伺いました。

Fビレッジの成功の鍵は？

——幼い頃から野球が好きでしたか？

学校帰りはランドセルを投げ出して、野球に夢中みたいな小学生。中学・高校時代も野球は好きでしたね。そして漠然と、将来はサラリーマンにはなりたくないって思っていました。

——大賑わいのFビレッジ。大成功の鍵となったのは？

大成功ではなく、成功の線路に乗っているという状況です。鍵となったのは間違いなく「人材」。未知のプロジェクトに挑む中、私が最も力を注いだことも人材の獲得でした。集ってくれた社員たちは、今私が関与しなくても、数々の事業を自走させてくれています。——前沢さんの手を離れた取り組みもあるんですね。

そのほうが多いかも。若手社員の、遊ぶように仕事をしている姿を頼もしく眺めています。

自分と組織の両方のために。

——遊ぶように仕事をする？

一人ひとりが役割を持ちながらも、全員が同じ目標に向かって協力し楽しんでいくようなイメージです。個人の「やりたいこと」と組織に「役立つこと」、その両輪を追求する働き方が、Fビレッジの躍進を支えているんです。

——遊びと仕事って対極みたいなの…

若手が発案した「Fビレッジおじさん」などはその好例。SNSを活用しお客様や来場者の要望を気軽に募るという取り組みですが、「おもしろそう、やってみたい」という遊び感覚と組織への貢献がちゃんと両立しているでしょう。

——若手のアイデアをどんどん採用しているんですね。

今の若い世代は膨大な情報量の中で生きてきたので、私とは明らかに異なる感性を持っています。まだ若い

株式会社ファイターズ
スポーツ&エンターテインメント
常務取締役 開発本部長
前沢 賢さん



ら、経験不足だからと否定するのではなく、その感性が生み出す意見や提案を積極的に受け入れることも、私たちの使命だと思っています。

好きなことと、生きていく。

——Fビレッジのこれからは？

今の完成度は30%くらい、今後も北広島駅前や周辺エリアの開発が進められていくでしょう。ただ詳細を描くのは私ではなく、20年後30年後を見渡せる次の世代です。

——より多くの人たちが、ここで働くようになるかも？

球場のアテンド、ユニークな飲食、芝生管理など、職域がどんどん広がっています。これまでの常識にとらわれない働く場所の創出、例えば子どもたちが運営する会社ができたり、シニアの方が主役となる仕事が生まれるのも

いいですね。

——夢が広がりますね。

Fビレッジが「人々の夢の実現」をサポートする場になればいいと思います。

——最後に若者たちにメッセージを。

親や周囲の人はあなたのことを思うあまり、「できない」「やめたほうがいい」と言うことがあります。ありがたいことではあるけれど、だからといって、それを鵜呑みにしてはいけません。大切なのはあなたの頭で考えること。そして自分自身に可能性を感じるならば、あなたの好きなこと、やりたいことの近くにいるべきだと思います。頑張ってください。

成功を疑問視する声に屈することなく、ボールパークプロジェクトをけん引し続けた前沢さん。その経験から紡がれる若者へのメッセージは、この上ない「親身さ」に包まれていました。

Profile

パシフィックリーグマーケティング、横浜DeNAベイスターズ取締役事業本部長などを経て、2015年北海道日本ハムファイターズに復職。2018年より「ボールパークプロジェクト」を主導し、2023年3月「北海道ボールパークFビレッジ」を開業した。

